

第37期
株主通信

2016年1月1日～2016年12月31日

IR Report



国際総合フレイトフォワードерを目指し、さらなる基盤固めへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは国際総合フレイトフォワードерへと進化を遂げるべく諸施策に取り組んでいます。第3次中期経営計画(2017年度～2019年度)では、グループの総合力を活かし更なる成長に向け事業基盤を固めていきます。以下、2016年度の業績と今後の展望についてご説明いたします。

減収減益も、海外拠点を着々と整備し事業拡大へ

2016年度の市場動向

当連結会計年度におけるわが国の貿易収支は6年ぶりの黒字となりました。これは原油安等により輸入総額が対前年比で大きく減少したことが影響しています。輸出においては、当社グループの主力地域である中国、アジア向けが前年を下回りました。

また、2016年の年初に1ドル120円台で始まった対ドル為替相場は年央にかけて一時1ドル100円台を切るなど相対的に円高基調で推移し、輸出貨物の取扱比率が高く、またドル建て半数の取引を行う当社の業績に大きな影響を及ぼしました。

連結業績は減収減益に

主力の「輸出混載輸送」の売上が対前年比で減少したほか、「輸出フルコンテナ輸送」や「航空輸送」の売上も前年度を下回りました。一方で、「輸出混載輸送」において新たにB/Lフィー（船積書類発行手数料）を追加するなど利益率の向上に努めました。

以上により、当連結会計年度の連結売上高は199億79百万円(前年同期比11.8%減)、営業利益は13億9百万円(同17.0%減)、経常利益は13億33百万円(同15.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は4億38百万円(同56.4%減)となり売上高、利益とも遺憾ながら前年度を下回りました。

中期経営計画(2014年度～2016年度)の総括

2016年度を最終年度とする中期経営計画において、当社グループは、当社の主力事業である混載輸送事業の競争力を維持しながら、名実ともに国際総合フレイトフォワードерへと変革していくことを目標に掲げ、取り組んでまいりました。



代表取締役社長

常多 晃

この3年間の取組みの結果、2015年3月には東京証券取引所市場第一部銘柄指定を受け、企業としてのステータスを向上させることができました。2015年11月には、香港と中国・深圳を結ぶ新たな拠点として、深圳に内外特浪速国際貨運代理（深圳）有限公司を設立しました。

また、2016年11月には、北東アジアのハブ港である韓国・釜山に建設を進めていた内外銀山ロジスティクス株式会社の倉庫が完成し、営業を開始しました。中期経営計画の最終年度に掲げていた売上高、利益の数値目標はいずれも達成できませんでしたが、国際総合フレイトフォワーダーへ向けての基礎固めができたと考えております。

ROE14%以上、営業利益率7%以上を目標に

—— 第3次中期経営計画（2017年度～2019年度）の展望

新たに策定した第3次中期経営計画においては、輸出入混載輸送事業を通じて培った幅広い信用と貨物輸送のスキルとリソースを最大限に活かして、国際総合フレイトフォワーダーとして数年内に売上高300億円を達成することを掲げました。さらにその先には500億円規模の物流企業としての地位を展望しています。

単体事業では、主力の混載輸送事業の収益力向上を目指し、B/Lフィー（船積書類発行手数料）の追加のほか、自社通関、国内外の配送を取り込んだ営業活動を強化します。そのために、フライングフィッシュ株式会社を中心とするフォワーディング事業に経営資源を投入し、混載輸送事業に並ぶ新しい事業の柱に育てます。また、株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパンによる航空輸送事業が着実に育っており、一層の事業拡大を目指します。

海外グループ会社事業では、自社倉庫事業を手がける内外銀山ロジスティクス株式会社の黒字化を実現し、さらなる業容拡大を図ります。この自社倉庫事業の収益モデルを早期に確立し、インド、タイ、シンガポールで既に手がける直営倉庫の増床や自社倉庫化を図り、アセットビジネスを広げていきます。また、現在注力するアジア市場において、既存海外代理店との連携を強化するとともに、フォワーディングや航空貨物など専門性を持つ新規代理店の開拓を図ります。今後成長が見込まれる中南米市場での営業活動も強化します。

さらなる成長のためには人材育成が欠かせません。フォワーディング事業拡大のための専門人材のほか、世界市場で活躍できるグローバル人材の育成は急務です。海外現地法人においては、現地スタッフの育成と登用を図り、一層の現地化を推進します。

これらの取組みにより、最終年度となる2019年度において、収益性、株主価値、資金効率を重視する観点からROE(自己資本利益率)で14%以上、また、収益性を重視する観点から、営業利益率については7%以上を目指します。

「全員野球」でリスクに左右されない事業体を目指す

—— 次期の市場について

足下では、東南アジアの景気にわずかながら改善の兆しが見えてきておりますが、米国トランプ新政権の発言、政策の影響で為替相場が左右されるなど、先行きが見通しにくい状況が続いています。2017年10月には通関業の営業区域制限が廃止されるなど当社を取り巻く環境も変化します。そのような環境の中で成長を遂げるには、グループ13社の連携を強め、総合力で強みを発揮していくことが求められます。また、相対的に利益率の高い混載輸送事業の総売上に占める比重が低下していく中で、新たな収益機会の獲得、業務の効率化に努め、フォワーディング業界における高収益体質の企業体を目指して取り組んでまいります。

—— 次期の見通し

単体においては、2016年度に減少した主力の輸出混載輸送の売上高が再び増加に向かうと見込んでいます。輸入についても小幅の増収を見込んでおり、単体では増収増益を計画しております。

国内子会社においては、フライングフィッシュ株式会社及び株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパンが行うフォワーディング事業を成長軸の中心と位置付けており、それぞれ売上増を見込んでおります。

海外においては、内外銀山ロジスティクス株式会社が黒字化し、売上増に貢献するのをはじめ、米国現地法人の経営基盤が安定化し、上海内外特浪速運輸代理有限公司をはじめとするその他既存海外子会社も成長し増収増益となる見込みです。

この結果、次期の当社グループの業績につきましては、売上高215億円(前年同期比7.6%増)、営業利益15億円(同14.6%増)、経常利益15億円(同12.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11億円(同150.8%増)を見込んでおります。

—— 株主還元について

当社の重要施策である株主還元については安定的配当を旨とし、国際総合フレイトフォワーダーへ向けた業容拡大を図る中で、売上だけでなく利益率にもこだわり、配当性向30%を目標に取り組みます。

—— 株主の皆様へ

当社グループが属する運送業界は、景気変動に伴う荷動きの変化に経営が左右されがちです。そうした業界において景気の影響を受けにくい企業体質にするためには、従来の輸出、混載、国内、ノンアセットに偏りがちだった当社の事業構成を輸入、フルコンテナ、海外、アセットとのバランスを見直していくことが求められます。そのためにも、輸出混載輸送という“エース”に頼るばかりでなく、フルコンテナ輸送にも注力するとともに航空輸送、倉庫事業、通関業などの新規事業領域での成長を図り、国際総合フレイトフォワーダーとしてまさに“全員野球”で変化の時代を乗り切っていきたいと考えています。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。



第3次中期経営計画について

【第3次中期経営計画の概要～当社グループが目指すもの～】

当社グループは、輸出入混載輸送事業を通じて培った幅広い信用と貨物輸送のスキルとリソースを最大限に活かし、国際総合フレイトフォワーダーとして数年内に売上高300億円を達成し、さらにその先には500億円規模の物流企業としての地位を展望しております。

■ グループ基本方針（各事業についての中長期的な基本方針）

① 単体事業

混載輸送事業をサービスの骨格とし、取扱数量の拡大による売上増とコスト低減による利益の増加を図ります。

② 国内グループ会社事業

- ・ フライングフィッシュ株式会社を中心とするフォワーディング事業に最大限の経営資源を投入し、混載輸送事業に並ぶ新しい事業の柱に育てます。
- ・ 株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパンは航空輸送事業及び通関事業等を拡大し、一層の収益向上を目指します。

③ 海外グループ会社事業

- ・ 内外銀山ロジスティクス株式会社の業容拡大と早期黒字化を目指します。
- ・ 海外グループ各社のきめ細かな戦略策定と迅速な意思決定で大幅な収益増を図ります。
- ・ 既存海外代理店との連携強化と新規代理店の開拓を促進します。

④ 人材の育成

個々の能力を高め多様性を重んじることで、組織目標を共有した強いグループ集団を創り上げます。

⑤ 株主還元

安定的配当を実施するための収益確保に努め、配当性向30%を目標に取組みます。

■ 目標とする経営指標【2019年度】

ROE(自己資本利益率)14%以上

- ▶ 収益性、株主価値、資金効率を重視する観点から、14%以上を達成目標とします。

営業利益率7%以上

- ▶ 収益性を重視する観点から、7%以上を達成目標とします。

自由貿易地域の特性を活かし 荷主のコスト削減に貢献

韓国・釜山新港熊東エリアにおいて建設を進めていた「内外釜山倉庫」が2016年11月に稼働し、順調な滑り出しを切っています。自社倉庫ならではの強みと現在の稼働状況、当社グループにもたらすメリットについて、同倉庫を管理運営する内外釜山ロジスティクス株式会社の岩貞均社長に話を聞きました。



内外釜山ロジスティクス株式会社
代表取締役社長 岩貞均

東アジアのハブ港に貨物保管拠点。流通加工にも対応

——なぜ韓国・釜山にこのタイミングで倉庫事業を稼働させたのでしょうか。

「釜山新港は、交通アクセスの良さ、24時間365日稼働など、利用者にとって使いやすい港として整備されており、日本、中国及び世界各国を結ぶ貨物の積替拠点としての利用が増えるなど世界第5位のコンテナ取扱量を誇る東アジアのハブ港として成長しています。船の手配だけでなく、貨物の保管も担うことができれば当社グループの事業はより広がると確信し、機会をうかがっていました。2014年に釜山港湾局が実施した用地賃貸の入札に参加して落札し、ようやく完成にこぎつけることができました」

——内外釜山倉庫の強みを教えてください。

「まず非居住者用在庫を活用できる点です。釜山新港は自由貿易地域（FTZ）に指定されており、通関申請せずに保管しておくことができます。販売先が決まり倉庫から出荷する段階で通関手続きをすればよいので、それまで長期間コストをかけることなく保管できます。また、流通加工ができることも特長です。保税で在庫としておいている間に商品を検品したり、ラベリングをすることも可能です。また、0℃、5℃まで対応できる冷蔵倉庫を三つ備えています。冷凍コンテナも保管できるよう20基分の電源も用意しています。さらに重量貨物への対応として25トンフォークリフトを備えるほか、コンテナを持ち上げられるリーチスタッカーも保有し、コンテナごと倉庫内で保管できるよう大型扉を採用しています。2階部分は、小さな区画に仕切って、流通加工作業を安全に行うことができるほか、化粧品などの品質チェックにも対応できるクリーンルームとして使うこともできます」



■アセットビジネス展開のモデルとして、 グループ内でノウハウを蓄積、共有目指す

—— 2016年11月からいよいよ稼働しましたが、お客様の活用事例をいくつか紹介してください。

「すでに約7割の稼働率で推移しています。ある日本のお客様は、韓国の販売元数社から購入した商品を日本向けに運んでいたのですが、各販売元からの商品をバラバラに船便で送ってもらうか、それぞれの商品でコンテナが埋まるのを待ってから船便で出していました。欠品を防ぐために日本に倉庫を借りて在庫を持っていました。そこで、当倉庫の非居住者在庫の活用を提案しました。現在は、欲しい商品だけを組み合わせる毎週コンテナに詰めて送っています。輸送効率が向上し、日本での在庫も持たなくて済むようになり大幅なコスト削減につながりました。別のお客様は、中国等から商品を買って、欧米への販売先が決まり次第送っているのですが、相場変動のある商品のため、値段の安い時期に大量に仕入れたものを当倉庫に保管し、適宜送っています。先日は急ぎょ航空便で送りたいということで、より頑丈な梱包にし直してその日のうちに仁川空港経由で送りました」



リーチスタッカー

—— 今後の展望を聞かせてください。

「内外釜山倉庫の開設は私が韓国の現地法人の社長を務めていた10年ほど前からの夢でした。後発ゆえお客様にとって使いやすい機能をふんだんに取り入れようと何度も設計し直して完成させました。順調な滑り出しを切っていますが、今後はできるだけ早くフル稼働にこぎつけることが目標です。海外のお客様からアパレルや雑貨などを輸入し、色やサイズごとにカートンで送られてくる商品を韓国内のショップごとにまとめなおして配送するなど、当倉庫ならではのきめ細かい対応力で取扱量を増やしていきます。釜山の非居住者在庫をまだご存知ないお客様が多いので、これを活用したコスト削減の提案を続けていくとともに、内外釜山倉庫の事業を通じて当社の知名度をさらに上げていくことに努めます。また、当社が今後本格的に倉庫事業を手がけていく際に、当倉庫で築いたノウハウを広げていきたいと考えています」

■リゾート施設、旧跡も豊富な観光都市・釜山

内外釜山倉庫がある釜山広域市は、韓国の南東部に位置し、ソウルに次ぐ韓国第二の都市です。韓国有数のビーチリゾートや歴史的な名所旧跡が豊富で、観光の拠点としても知られています。また、釜山国際映画祭をはじめ、国際的なイベントも行われています。一帯は、台風や地震などの自然災害にほとんど見舞われることがないためポートクローズ（入出港禁止）もほとんどなく、定時運行の確保やBCP（事業継続性）の観点から釜山新港を活用する荷主様も増えています。

当期の業績

売上高

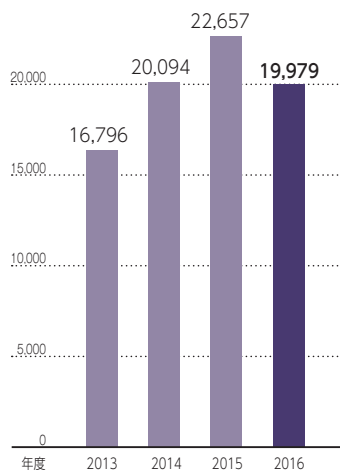
19,979百万円

前期比

11.8%減



(単位:百万円)
25,000



親会社株主に帰属する 当期純利益

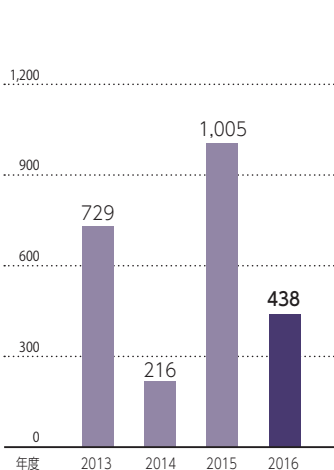
438百万円

前期比

56.4%減



(単位:百万円)
1,500



1株当たり配当金

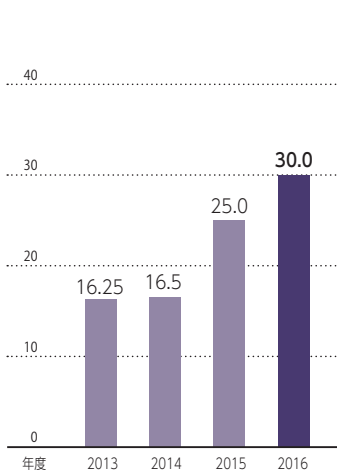
30.0円

前期比

5円増



(単位:円)
50



国内売上高は、単体の輸出売上で混載輸送及びフルコンテナ輸送双方で苦戦し、輸入売上及び国内子会社も減収となった結果、前期比11.1%減となりました。海外売上高も、中国の経済減速、アジア新興諸国の成長鈍化、日本発貨物の減少等により、同13.2%減となりました。

当連結会計年度において、連結子会社であるフライングフィッシュ株式会社ののれん残高の全額460百万円を減損処理したことに伴い、前期比56.4%減となりました。

業績の推移並びに財務状況などを総合的に勘案しつつ、安定的な配当の継続実施を将来にわたり堅持する方針のもと、当期は年間配当30.0円としました。

(注) 2015年6月末日を基準日として1:2の株式分割を実施、上記の1株当たり配当金は分割後配当額を表示しております。

■ キャッシュ・フロー指標

(単位：百万円)

| | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|----------------------|--------|--------|--------|---------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 432 | 963 | 1,053 | 946 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △499 | 160 | 160 | △1,305 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 52 | △415 | △1,068 | 364 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 3,752 | 4,714 | 4,693 | 4,496 |

■ 資産関連指標

(単位：百万円)

| | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------------|
| 総資産 | 8,980 | 9,166 | 8,863 | 9,393 |
| 純資産 | 6,625 | 6,977 | 6,786 | 6,856 |
| 自己資本比率 (%) | 73.1 | 75.1 | 72.7 | 68.6 |

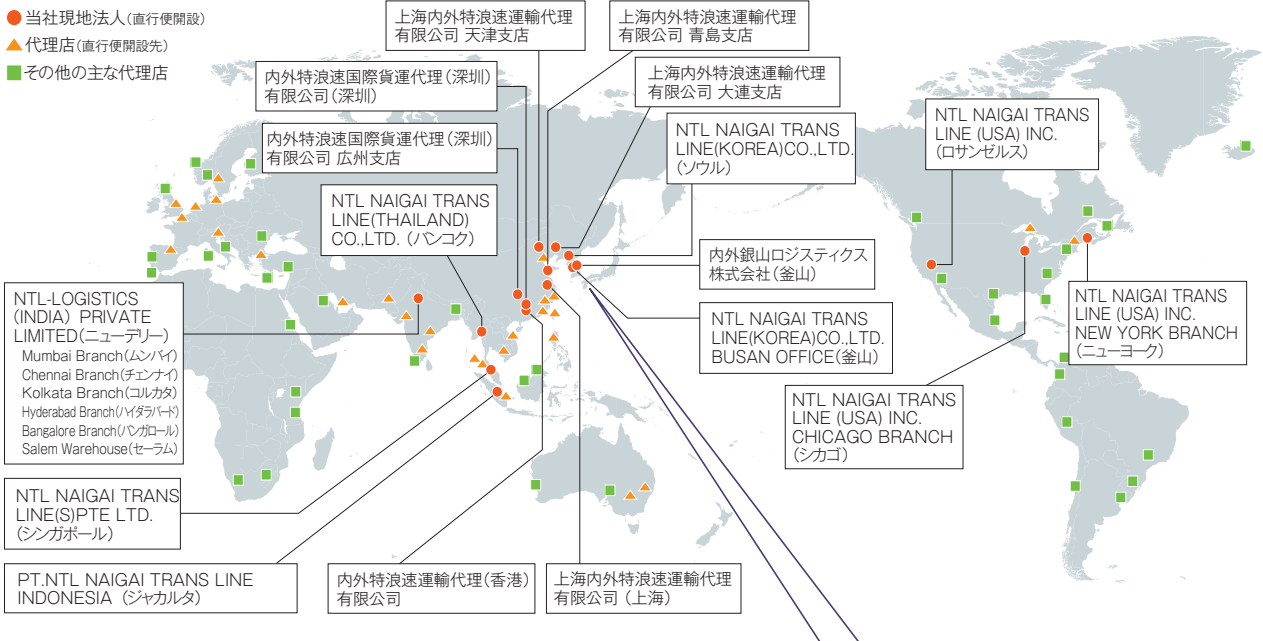
■ 1株当たり指標

(単位：円)

| | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|------------|----------|--------|--------|---------------|
| 1株当たり当期純利益 | 137.81 | 20.22 | 94.72 | 45.23 |
| 1株当たり純資産 | 1,227.50 | 643.94 | 664.32 | 664.35 |

(注) 当社は、2015年7月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産は、2014年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

世界と日本を結ぶネットワーク

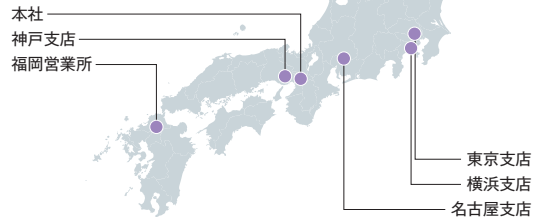


内外トランスライン株式会社

国内事業所

2017年3月24日現在

| | |
|-------|----------------------------------|
| 本社 | 大阪市中央区安土町三丁目5番12号 御堂筋安土町ビル 3階 |
| 東京支店 | 東京都中央区日本橋三丁目8番2号 新日本橋ビル 6階 |
| 横浜支店 | 横浜市中区日本大通60番地 朝日生命横浜ビル 4階 |
| 名古屋支店 | 名古屋市中区錦二丁目15番22号 りそな名古屋ビル 5階 |
| 神戸支店 | 神戸市中央区東町126番地 神戸シルクセンタービル 5階 |
| 福岡営業所 | 福岡市博多区博多駅前二丁目20番1号 大博多ビル 10階 |



株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパン

国際貨物輸送事業
拠点: 東京・成田・大阪・南港・関空

フライングフィッシュ株式会社

国際複合一貫輸送事業
拠点: 東京・大阪・ジェノバ

会社概要

会社概要

2017年3月24日現在

| | |
|---------|--|
| 社名 | 内外トランスライン株式会社 (英名: NAIGAI TRANS LINE LTD.) |
| 設立 | 1980年 5月 1日 |
| 代表取締役社長 | 常多 晃 |
| 従業員数 | 565名(連結) |
| 資本金 | 243,937,240円 |
| 上場市場 | 東京証券取引所市場第一部 |
| 加入団体 | FIATA IATA 国際フレイトフォワードーズ協会(JIFFA) 日本貿易振興機構(JETRO) 大阪商工会議所 東京商工会議所 神戸商工会議所 名古屋商工会議所 横浜商工会議所 福岡商工会議所 東京通関業会 横浜通関業会 |

役員一覧

2017年3月24日現在

| | | |
|---------|-----|----|
| 代表取締役会長 | 戸田 | 徹 |
| 代表取締役社長 | 常多 | 晃 |
| 専務取締役 | 大川 | 友子 |
| 取締役 | 田中 | 俊光 |
| 取締役 | 三根 | 英樹 |
| 取締役 | 戸田 | 幸子 |
| 取締役 | 太田 | 達雄 |
| 社外取締役 | 武井 | 眞哉 |
| 社外取締役 | 伊藤 | 嘉章 |
| 常勤監査役 | 長谷川 | 豊 |
| 社外監査役 | 川崎 | 裕朗 |
| 社外監査役 | 敏森 | 廣光 |

株式の状況

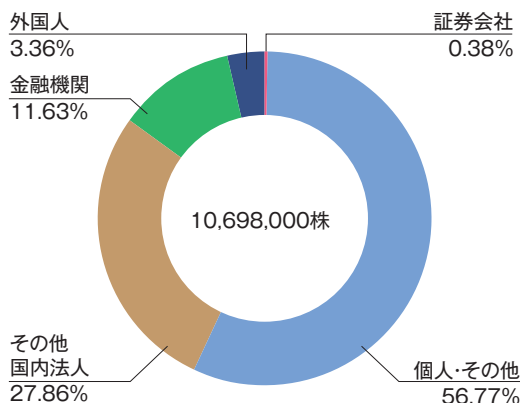
2016年12月31日現在

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 32,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 10,698,000株 |
| 株主数 | 14,054名 |

大株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|-----------|---------|
| 合同会社エーエスティ | 2,121,800 | 19.83% |
| 内外トランスライン株式会社 | 1,000,988 | 9.36% |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 384,900 | 3.60% |
| 内外トランスライン従業員持株会 | 383,000 | 3.58% |
| 株式会社みずほ銀行 | 280,000 | 2.62% |
| 株式会社ときわそば | 250,400 | 2.34% |
| 戸田 徹 | 239,800 | 2.24% |
| 日章トランス株式会社 | 232,000 | 2.17% |
| トランコム株式会社 | 220,000 | 2.06% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 188,700 | 1.76% |

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度：毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会：毎年事業年度終了後、3か月以内に開催いたします。

基準日：定時株主総会 12月31日
期末配当金 12月31日
中間配当金を行う場合 6月30日

株主名簿管理人：東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

公告方法：電子公告の方法により、下記ホームページに掲載いたします。
ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
<http://www.ntl-naigai.co.jp/>

単元株式数：100株

上場取引所：東京証券取引所市場第一部

証券コード：9384

お問合せ先：〒168-8507

東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店：みずほ証券

本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
でもお取扱いたします。

みずほ信託銀行

本店および全国各支店(※)
(※)トラストラウンジではお取り扱いできませんので
ご了承ください。

未払配当金：みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※)
のお支払

みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次のみとなります)

(※)トラストラウンジではお取り扱いできませんので
ご了承ください。

お取扱窓口：証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、上記のお取扱店にてお取次いたします。
なお、支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の上記連絡先にお問合せください。



表紙写真：釜山新港

大韓民国の釜山広域市にある港湾で、港湾法上の第1種港に定められており、大韓民国最大の規模と貨物取扱量を誇ります。釜山港のコンテナターミナルは、世界各地からのコンテナを韓国国内に輸送したり、日本や中国の地方港向けの路線に積み替えたりする拠点となっており、コンテナ貨物における世界トップクラスのハブ港湾として、コンテナ取扱量世界第5位となっています。

 内外トランスライン株式会社

〒541-0052 大阪市中央区安土町三丁目5番12号 御堂筋安土町ビル3階
TEL 06-6260-4710 FAX 06-6260-4719

